

名城同窓会ニュース

名城大学附属高等学校同窓会 〒453-0031 名古屋市中村区新富町 1-3-16 TEL (052) 481-7436

令和7年3月1日発行

第49号

発行者 福江 美智子

文化講演会

～「同窓会プレゼンツ アントレプレナーシップ講座」開催～

目次

●ご挨拶	2	◆部活動報告		●新任教諭紹介	12
●同窓会役員(第18期)紹介	2	ウエイトリフティング部	8	●退任教諭紹介	12
◆トピックス(同窓会事業)		スキー部	9	●新体育館(ユニット型)新築工事について【令和7年完成(予定)】	13
文化講演会	3	陸上競技部	9	●物故者	13
卒業アルバム「アーカイブ版DVD」を寄贈しました	4	体操競技部	10	●「名城大学附属高等学校ゆかりの物品」寄贈のお願い	13
同窓会から寄附をしました	4	ダンス部	10	●募金・寄付のお願い	14
◆トピックス(行事)		柔道部	11	●応援プロジェクト	14
名城オリンピック	5	空手道	11	●令和6年度事業報告	15
芸術鑑賞会と文化祭	5			●令和6年度収支決算	15
◆トピックス(教育)				●令和7年度事業計画	15
第3回「探究Day」開催	6			●令和7年度収支予算	15
SSH東海フェスタ2024開催!	6			●巻末	16
「令和6年度 SSH生徒研究発表会-SSH Students Fair 2024-」報告	7				
国際クラス「MONO・COTO INNOVATION 2024」優勝	7				
国際クラス「Tongali-Juniorコンペティション」最優秀賞・名古屋大学賞受賞	7				



ご 挨 拶

名城大学附属高等学校同窓会
会長 福 江 美智子

会員の皆さま方におかれましては、同窓会活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、今年度新しく同窓会に入会されました卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

名城大学附属高等学校同窓会会長を務めさせていただいております平成 15 年卒業生の福江美智子でございます。今日まで歴代会長をはじめ、多くの役員の皆様、同窓生並びに地域の皆様のご尽力によって築かれました本会の歴史と伝統を大切にしながら、微力ではございますが、同窓会の充実発展に向けて誠心誠意努力して参る所存でございます。皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆様におかれましては、これから進学される方をはじめ、様々なフィールドでご活躍されることと思います。その中で、今では想像がつかない環境の変化があるかもしれません。事実、私が高校を卒業した際には、全科の男女共学化、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定など、今の附属高校を想像することはできませんでした。しかし、変わらないことは、高校での学び、友人関係、思い出たちです。特に、名城大学附属高校の教育の特色である「生きる力」を十分に付けられたことと思います。今は、ご自身の中で実感が湧かない方もおられるかもしれませんが、これから社会にでた際には必ずこの力は皆さんの武器になり、変化を楽しむことができるでしょう。名城大学附属高等学校生としての誇りを胸に、益々ご活躍されますことを心より期待しております。

最後になりますが、来年の 2026 年には、開学 100 周年という記念すべき年を迎えます。開学 100 周年記念事業の実現と成功に導くためには、卒業生の皆様のご理解とお力添えがなくては成し得ることはできません。是非とも、これを機に同窓会事業への積極的なご参加をお待ちしております。

名城大学附属高等学校と同窓会の益々の発展のため、同窓会役員一同、努めて参りますので、今後も末永く、会員の皆様方のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

同窓会役員（第18期）紹介

第 18 期の任期は、令和 6 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までとなります。

【第18期 同窓会役員名簿】

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
会 長	福 江 美智子	学内幹事（庶務）	松 下 泰 夫
副 会 長	日 置 慎 二	名誉会長	中 島 健
副 会 長	近 藤 千 春	名誉会長	武 村 學
監 査	鈴 木 礼 治	相 談 役	後 藤 健 太 郎
監 査	長 尾 真 里 子	相 談 役	紀 平 知 大
書 記	鎌 田 直 洋	名誉顧問	伊 藤 憲 人
書 記	服 部 克 也	顧 問	岡 充 彦
学内幹事（会計）	荒 木 玲 子	顧 問	杉 山 豊 美

文化講演会

「同窓会プレゼンツ アントレプレナーシップ講座」開催



令和6年1月18日(木)、本校卒業生(1999年普通科卒)で元キックボクシング世界チャンピオン、現在はジム経営、総合格闘技の解説者としても活躍している佐藤嘉洋氏により講座が開催されました。講演テーマは「辞書の旅をしているキックボクシング元世界チャンピオン」です。同窓会では昨年に引き続き、附属高校で実施されている生徒(同窓会準会員)向けの講座を支援する形としました。附属高校では、全生徒対象に授業後を利用した様々な講座が開かれており、今回はその中の1つである「アントレプレナーシップ講座」を支援することとしました。

講師の佐藤さんは、中学時代にキックボクシングを始め、大学生の時に世界チャンピオンになったこと。その

後総合格闘技の大会である「K-1」への出場を果たしたことなどを、当時の映像を流しながら生徒に説明されました。その後、ジムの経営の上で工夫をしたこと、人とのつながりの重要性などについて話をされました。そして、数年前から「辞書の旅」を始めたことを説明されました。

「辞書の旅」を始めたきっかけは、三浦しをんさんの「舟を編む」を読み辞書について興味をもったことです。「辞書の旅」とは、国語辞典の最初の巻頭言から末尾まですべてを1日1ページ読み続け、その日読んだページの中から一言を抽出しSNS上に感想とともに載せていくというものです。1日も欠かさず読み進めていくと、今までよく意味がわからなかった言葉、知らなかった言葉に出会い様々な気付きがあること。1冊の辞書を読み終え、他の国語辞典を読んでいくことで同じ言葉でも、語釈が違うことに気付いていったこと。また、同じ辞書でも版を重ね改訂が行われる中で、言葉の語釈が変わっていくことなど、辞書の奥深さ、面白さについて語られました。現在では、言葉の感想だけでなくその言葉を書で表現していること、写真でも表現していると画面を使って説明されました。話しの終わりには、実は辞書の旅とキックボクシングには共通することがあるのではないか。それは、どちらも毎日継続することによって確実に力を付けることができること。自分は今、誰でもやれることを毎日やり続けたらどうなるかの実験をしている。このこと自体が、アントレプレナーシップなのかもしれないと話されました。

最後の福江会長が謝辞を述べ、挑戦していくことの大切さを自身も感じた参加した生徒たちに話されました。生徒たちからも、「本気でやってる『つもり』じゃなくて、失敗したら今までは本気を出せていなかったという考え、心に響きました」、「何事も、行うことがすごいのではなくて、毎日続ける、積み重ねることが非常に大切だと強く感じた」などの感想が寄せられました。



講演会終了後、同窓会からは参加生徒にパンやジュースが配付されました。また、佐藤さんからもご自身が作成されたLINEスタンプのステッカーが配られ、生徒たちは笑顔で帰路につきました。



卒業アルバム「アーカイブ版DVD」を寄贈しました

この度、同窓会事業として進めてきました、図書館に保管されている卒業アルバムのデータ化が完了し、令和6年2月29日（木）に、同窓会役員を代表して、福江会長、近藤副会長、鎌田書記が伊藤校長に完成の報告と、DVDの寄贈をしました。

このDVDは、1955年（昭和30年）卒業生の卒業アルバムから現在に至るまでのアルバムのデータが収録されています。アルバム冊子をスキャンするため、数年前から一歩ずつ計画・作業を進めて今日に至りました。昭和→平成→令和の3元号をあゆんだ、本校の永い歴史から、完成したDVDは2枚組となりました。



左から鎌田書記、福江会長、伊藤校長、近藤副会長



アーカイブDVD
(2セット作成しました)

同窓会から寄附をしました

昨年、令和5年10月23日（月）に発生した第2体育館火災を受けて、その支援策の一環で、令和6年度予算に特別援助費を設置し、100万円を寄付しました。

法人からその感謝の意を込めて感謝状が贈られました。伊藤校長より、福江会長、近藤副会長、長尾監査3名に感謝状の盾が贈られました。

福江会長はじめ役員3名は、伊藤校長より、その後の様子や今後の予定などについて報告をうけました。

同窓会としまして、今後も引き続き、支援をしていきたいと思っております。皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。



福江会長（左）へ伊藤校長（右）より感謝状盾が渡されました。



左から長尾監査、近藤副会長、伊藤校長、福江会長

名城オリンピック

6月19日～21日、今年度も無事に名城オリンピックを開催することができました。今年度は河川敷競技において例年まで実施していた障害物競走に変えて、生徒会執行部が考えた玉入れを行い大変盛り上がりました。今年度もすべての種目は天候の関係で実施できませんでしたが、雨天時種目のドッジビーも白熱した試合が展開され、応援も盛り上がり、生徒たちにとっても満足のいく学校行事になったと思います。100周年に向けてさらに盛り上がるイベントにするためのアイデアを出していきたいと思います。

同窓会から熱中症対策としてのドリンクの差し入れもして頂き、全校生徒に配布することができました。

【名城オリンピック結果】

総合優勝 3A5

準優勝 2S1・3S4・3S5



芸術鑑賞会と文化祭

10月2日に芸術鑑賞会、10月3日、4日に文化祭が開催されました。

芸術鑑賞会は、昨年に引き続いて60分公演の三部入れ替え制で開催しました。今年は我武者羅應援団にきて頂き、全校生徒に熱いメッセージを贈ってくれました。また、各学年に代わる先生方や職員の方々からのメッセージを伝えるコーナーもあり、大いに盛り上がりました。

文化祭は、今年度も食品バザーを実施することができ、バリエーション豊かな店が並び、生徒が楽しそうに回る姿が見られました。PTAの方々のくじも盛り上がり、おかげさまで充実した文化祭になりました。同窓会のブースにも多くの方が訪れ名城高校の歴史を感じていただくことができました。また、今年度は各クラスの出し物の種類に制限をかけ、同じ内容のものにならないように工夫をした結果、各クラスの出し物のクオリティも高く、廊下に長蛇の列ができるクラスもあり、より充実した文化祭が実施できたと感じています。



第3回「探究Day」開催

2月22日と28日の2回にわたって「探究Day」を開催しました。今年度で3回目を迎える探究Dayは、1、2年生の全校生徒1,320名が学年やコースの枠組みを越えてランダムに編成される264班に分かれて、探究を行う取り組みです。55名の生徒実行委員会の生徒たちによって運営、進行がなされ、「名城大学附属高等学校の「ブランディング」を推進せよ!～名城高校の「ならでは」を探究し、アクションプロジェクトを考えよう～」をテーマに活動しました。

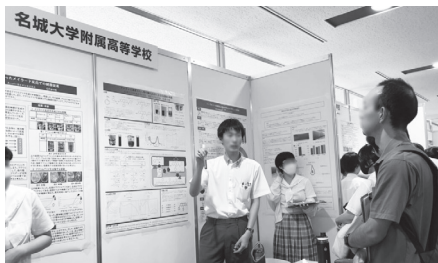
基調講演では、東京都市大学都市生活学部末繁雄氏を招聘し、「ならでは」が魅力になり、ブランディングになることを学びました。

Day2ではすべての教室に1～2名ずつお招きした、総勢46名の外部からの助言者のもと、各班は協議・検討・提案の発表を行いました。これにより、学年やコースを越えて「混ざる」だけでなく、生徒と大人が「混ざる」実践となりました。

生徒の事後アンケートでは86%が「テーマについて考えを深めることができた」と回答しており、「楽しかった!」、「意外に楽しむことができた。自分が思い浮かばなかったアイデアが寄せられることで新しい視点を持つことができた。」といった意見が多く寄せられました。助言者には、卒業生の皆さんも多く参画してください、中には昨年に続いての参画してくださる方もおられました。ご参加くださった皆様、ご協力ありがとうございました。



SSH東海フェスタ2024開催!



2024年7月13日(土)、名城大学天白キャンパスで本校主催「SSH 東海フェスタ2024」を行いました。これは、愛知、岐阜、三重、静岡のSSH指定校を中心に他地域の学校を含めて開催する生徒研究発表会です。今年度は関東から2校、タイから1校を含めた26校、約800名の参加により実施しました。本校からはSSクラス3学年全員と特進クラスの「理数探究」代表者、およびその他の希望者が参加しました。

午前中の口頭発表分科会では各校の代表が5つの分野に分かれて発表しました。どの研究も学校の代表というだけあって、高いレベルの研究が多くありました。質疑応答も鋭い質問が多く、参加者は意欲的でした。講評は名城大学の理系学部の学部長と名古屋大学の先生が行ってくださいました。

午後は各校のブース発表、個人のポスター発表が行われ、自由な発表や議論が活発に行われました。WPI(世界トップレベル研究拠点プログラム)のブースには名古屋大学、大阪大学、京都大学が出展していただき、多くの生徒たちが刺激を受けていました。参加者には申し訳ありませんでしたが、空調が満足に届かないくらい熱気に包まれました。

さらに、後半では口頭発表全体会として午前中の審査の結果選ばれた、5校の口頭発表が行われました。650名収容の名城ホールに加え、サテライト会場も設けて参加者全員で発表を聞きました。審査の結果選ばれた学校の発表はどれも素晴らしいものでした。

最後には審査の結果選ばれた学校は表彰され、盛況のうちに終わることができました。アンケート結果からは96.4%の生徒から「今回のフェスタに参加して、研究活動に対する意欲が増しましたか?」に対して肯定的な回答を得ることができ、今後の課題研究の発展に寄与できました。

表彰結果

- 口頭発表優秀賞(5校): 愛知県立豊田西高等学校、東海大学付属高輪台高等学校、静岡市立高等学校、静岡北中学校・高等学校、静岡県立清水東高等学校
- ブース発表特別賞(4校): 愛知県立豊田西高等学校、愛知県立半田高等学校、名古屋市立向陽高等学校、名城大学附属高等学校

「令和6年度 SSH生徒研究発表会 -SSH Students Fair 2024-」報告

2024年8月7日～8日に神戸国際展示場においてSSH生徒研究発表会が開催されました。これは全国のSSH指定校の代表が、課題研究などで行った研究成果を発表するものです。本校からは特進クラス3年生1名と2年生2名、SSクラス2年生1名が参加しました。

本校は「理数探究」の授業で取り組んだ、「強光照射下におけるミドリムシの新奇光応答」をテーマに発表しました。これは持続的な強光下で見られた、ミドリムシが遊泳を停止し群体を形成する現象について探究を行ったものです。

コロナ禍の影響で一般参加者が制限されていましたが、今回より再開され、ポスター発表や全体会の口頭発表は熱気にあふれ、質疑応答も活気に行われました。本校は残念ながら表彰には至りませんでしたが、発表では多くの生徒や教員とともに様々な意見交換や議論ができ、有意義な発表会となりました。SSツアーで2日目に合流した本校の1年生や2年生もたくさん発表を聞きに来てくれて、とても励みになりました。



国際クラス「MONO-COTO INNOVATION 2024」優勝

2024年8月6日(火)から10日(土)に、東京都で開催された「MONO-COTO INNOVATION 2024」に、国際クラス1年生の東海彩花さんが参加し、優勝しました。

このイベントは、一般社団法人 CREATION DRIVE が主催し、選考を通過した80名の中高生が夏休みに全国各地から集まる4泊5日の合宿プログラムで、Z世代、さらにはα世代(2010年以降生まれ)の若い感性を生かして、自由な発想と新しい価値観とともに未来のサービスを考えるものです。東海さんは「これからの音楽体験のデザイン」というテーマで、テーマに関連する企業がスポンサーとなる最終プレゼンテーション審査で見事優勝し、副賞として、10月18日(金)デジタルイノベーション総合展の「CEATEC JAPAN 2024」に招聘されました。



優勝した東海さんのグループ(一番右が東海さん)

〈東海彩花さんからの一言〉

このイベントでの活動は、緊張すること・初めてすることの連続でした。選考課題を提出した時、メンターの方に初めてコメントをお願いしに行った時など、ドキドキワクワクが止まりませんでした。中でも、優勝グループ発表の時は、真夏にも関わらず、緊張してガタガタ震えていたことを覚えています。その後、優勝グループとして自分達が呼ばれた時は、驚きと達成感で声が出なかったけれど、グループ全員でガッツポーズをしました。優勝賞品として参加させていただいたCEATECでは、とても緊張しましたが、自分たちのアイデアを聞いて頷いたり声をかけてくださる方が多く、挑戦してみても良かったなと思うことができました。今は、このイベントを考えたアイデアで特許を取ろうと考えています。新しい経験をするのは、ドキドキワクワク、とても楽しいことだと、この活動を通じて学ぶことができました。

国際クラス「Tongali-Juniorコンペティション」最優秀賞・名古屋大学賞受賞



左：平岡、中央：野田、右：大澤

2024年8月1日(木)から3日(土)に開催された「Tongali-Junior コンペティション」に国際クラス1年生の大澤美雨さん、野田樹里さん、平岡凛さんが参加し、優秀な成績を収めました。

Tongali-Junior コンペティションは、東海発起業家育成プログラムである Tongali と連携し、高校生に起業に関する興味と能力を高める機会を提供されるものです。今回は「コミュニケーション」をテーマに、高校生等が身近に潜む課題を発見し、ビジネスと科学の観点からその課題解決策を見出し、発表しました。大澤さん、野田さんのチームは、若い世代のメンタルサポートをテーマに、平岡さんは保護犬と人とのマッチングをテーマに、それぞれアプリ開発を行いました。

〈大澤美雨さんからの一言〉

今回、イノベーションについて主に学び、「誰かを120%に幸せにするには」というテーマでアプリを作成しました。何もない状態から生み出す難しさを実感し、現在社会で抱えている課題を解決するには、たくさんの知識を増やすことが必要だと分かりました。これからも多くの学びを増やしていきたいと思います。

〈野田樹里さんからの一言〉

今まで「起業」というテーマに触れたことがなかったのですが、アイデアからアクションを起こす面白さに魅力を感じ、夢中になって取り組むことができました。プランを考えるにあたって、たくさんの方に協力していただいて、改めて出会いの大切さに気付くことができ、私にとって有意義な経験になったと思います。

〈平岡凛さんからの一言〉

もともと起業に興味はなかったのですが、Tongali-Junior コンペティションを通して、自分のアイデアを形にする楽しさや、挑戦することの重要性を学ぶことができ、将来のキャリアに対する意識が高まりました！

全国大会等に出場した部活動等報告

ウエイトリフティング部

- ◆第39回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会 出場
男子55kg級(西田 航太郎)トータル6位入賞
- ◆令和6年度全国高等学校総合体育大会 出場
男子61kg級(西田 航太郎)、男子96kg級(丸山 怜桜)
女子55kg級(木村 日菜)
- ◆第78回国民スポーツ大会 出場
男子61kg級(西田 航太郎)スナッチ4位入賞、67kg級(丸山 怜桜)クリーン&ジャーク8位入賞

『成長』

総合学科3年 木村 日菜



令和6年度 東海高校総体 優勝

私はウエイトリフティングを通じて、高校入学当初には想像もしていなかった自分に成長することができました。もともとは中学時代に入部していた剣道部に入るつもりでしたが、担任の山中先生が顧問をしている部活も面白そうだと感じ、練習場を訪れたのがきっかけです。そこには、重りを軽々と持ち上げ、試技に集中する先輩や、近くで応援する仲間の姿があり、「私も強くなりたい!かっこよくなりたい!」と直感で入部を決意しました。運動が得意でなかった私ですが、練習を重ねるたびに自分の成長が「数字」として目に見えることや持ち上げた時の爽快感から次第にウエイトリフティングにのめり込んでいきました。

しかし、楽しかった高校生活は順調には進みませんでした。コロナ感染や慣れない高校生活で体調を崩し、学校に通えない日々が続きました。その時、部活動の顧問であり担任の山中先生から「自分が熱中していることに励めば、どんなに辛くても道は開ける」と声をかけていただきました。あの当時なぜか部活動にだけ前向きに行けたことを覚えています。少し時間はかかりましたがそこからポカンと空いた日々を取り返すかのように部活動に熱中しました。目標を「全国選抜、インターハイ出場!」と掲げ、早朝から練習やメニューを工夫しました。つらい時も先生や仲間からの声掛け、家族からのサポートで頑張ることができたこと、本当に感謝しかありません。そ

して愛知県大会、東海大会で優勝を果たし、ついにインターハイ出場を掴み取り今までに味わったことのない達成感を感じることができ本当に嬉しかったです。そして自分に自信がついたし自分自身を好きになれました。

高校生活で得た経験と先生から頂いた言葉を胸に、大学生活でもウエイトリフティングを続けていきます。一歩ずつ一歩ずつ少しずつしか前にすすめない私ですが、より高みを目指し誠心誠意ウエイトリフティングに取り組んでいきたいと思います。

『己に克つ3年間』

総合学科3年 丸山 怜桜

私はウエイトリフティングに出会い、高校生活が一生の宝物になりました。初めて部室に足を踏み入れた時のことは今でも鮮明に覚えています。当時の担任兼顧問の山中先生からウエイトリフティングの話は聞いていたものの、いざ部室に行くときれいと感じたことのない衝撃を受けました。100キロのバーベルを軽々と持ち上げる先輩、鳴り響く音、目の前には異様な光景が広がっていました。私が初めて持ち上げたのは20キロ。ありえない重さに「先輩のように100キロも挙げられるようになるのか」という不安を感じたと共に不安を超える楽しさにも出会うことができました。しかし、競技のことを学ばば学ぶほど楽しい感情だけでは成り立たない現実と直面しました。同級生が記録を伸ばしているのに自分だけ伸びない時期が訪れ、「練習に行きたくない」と後向きな感情が芽生えました。そんなとき、私はキャプテンになりました。部の代表となったことで「このままでは何も成長できない」と強く感じ、気持ちを入れ替え練習に取り組み、苦手なことを率先してやることにしました。すると挑戦することや仲間と協力し困難を乗り越えていく新たな楽しさに出会うことができ、前向きに競技に取り組めるようになり、インターハイに出場することができました。全国大会には出れたものの悔しい結果となり「全国大会で入賞したい!」と思うようになりました。残された最後のチャンスである国民スポーツ大会、無事出場権を得られ練習に励む中、手首を負傷し最後の試練に直面しました。思い通りに動けない中できることは、諦めない気持ちを持つことでした。先生、家族そして共に戦ってきた仲間を支えられ出場した試合では、入賞を果たせました。私はウエイトリフティングを通して、自分の可能性を信じ挑戦することの大切さを知ることができました。最高の仲間、先生そしてウエイトリフティングに出会うことができ幸せです。ありがとう。



令和6年度
国民スポーツ大会で
表彰台に立つ

スキー部

◆令和5年度全国高等学校総合体育大会 出場
 クロスカントリー (児玉 綾香、舩橋 和花、藤原 沙月、石黒 太誠、太田 釉、
 山田 篤弥、墨 太志郎、神田 地潤、足立 壮)
 アルペン (林 野乃花、鈴木 望生)

『雪上で燃やす闘志』

名城大学附属高校は愛知県の中で数少ないスキー部がある高校です。

この高校には、2つのスキー競技があります。1つは、斜面に設置された旗門を正確に通過しながらコースを滑り降りる「アルペンスキー」です。もう1つは、移動手段として誕生した、長距離の登り降りをする「クロスカントリースキー」です。

私はクロスカントリースキーの選手になりました。スキー、個人競技、長距離種目などほとんどが初めてのことで、普段の練習がとても辛く感じましたが、仲間と励まし合い、競い合いながら乗り越えてきました。初めての雪上では、オフシーズンに土やアスファルトで練習してきた感覚とはまったく違い、今までの努力を無に帰されたような悔しさを感じると同時に「これが自然を相手にするスポーツか」とワクワクしたのを今でも覚えています。

2年生では部長を務めさせていただきました。2年目ながらも仲間と頭を捻りながら練習メニューを考え、実践し、また練り直すという日々を過ごしました。後輩への教えと自分の成長を両立する事には苦労しましたが、皆の上達が目の前で起こるので嬉しさも大きかったです。

インターハイで入賞できるような順位を取ることはできませんでしたが、それでも全てのレースを走りきり、部長として一年間を終えたことに誇りを持っています。

最後になりますが、初心者だった私を導いてくださった先生方や先輩、コーチ、私を信じて付いてきてくれた後輩や同級生、道具や日々の体調の面で支えてくれた家族、全ての方に心から感謝を申し上げます。この感謝の気持ちを忘れずに、次のゴールに向かって頑張ります。ありがとうございました。

普通科3年 山田 篤弥



陸上競技部

◆第77回 全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 出場 三段跳 (中村 光希)
 ◆2024 U20日本陸上競技選手権大会 出場 三段跳 7位入賞 (中村 光希)

『成功より成長』

中学の時は結果を出すことができずに、悩んでいました。その時の中学の顧問に「楽しみなさい」とアドバイスされて結果をだすことのみに執着していた自分に気づかされました。そこで楽しむことで、力がぬけて結果をだせていけるようになりました。

「こころ」の状態が、競技結果に関わっていることが実感できるようになりました。2年生、3年生と上級生になり、練習内容も工夫したり、自分で試し、後輩に指導する時が増えてきました。食事や睡眠も改善して自分に足りない所を伸ばせることを取り組んでいました。

中学までは、全国大会にでることも大変でしたが、高校では全国で優勝争いできるまでに成長できて、目標達成のために取り組んでいる自分が好きです。

今年は織田記念国際陸上大会で全国大会3位に入賞して、全国総体も優勝を狙っていましたが、優勝はできませんでしたが、自分の成長を感じながら挑戦はできました。やらされる練習でなく、自分で工夫し、自分で行動を起こし、取り組んだことに悔いはありません。

2026年度は、愛知県名古屋市でアジア大会が開催されます。その大会を最大の目標にして取り組んでいきたいです。

最後に家族、先生、友達、後輩たちに支えられてきたことに感謝したいです。本当にありがとうございました。

普通科3年 中村 光希



体操競技部

- ◆令和6年度全国高等学校総合体育大会 団体出場
(溝田 稜樹、和出 勇介、伊藤 大空、万波 優太【団体補欠：水谷 優太、塚本 啓心】)
個人出場(本田 稜汰)



『恩返し』

総合学科3年 伊藤 大空

名城大学附属高等学校体操競技部には毎年インターハイ団体8位入賞という目標があり、部員、マネージャー、顧問の先生と共に目標を実現させるため練習に励んでいました。しかし私がキャプテンになって間もなく、2023年10月23日に普段練習をしていた第二体育館で火災が発生し、全焼してしまいました。その時は私含め部員全員がこの先の大会はどうなってしまうのだろうかという気持ちになりました。しかし、多くのクラブや高校、大学から支援をいただき、練習場所を貸していただくことで練習を継続

することができました。

無事迎えることのできたインターハイでは毎年掲げていた「団体8位入賞」という目標は一旦白紙にし、「決勝に進出し、支えてくださった方々に演技で恩返しする」という目標に立て直しました。その目標を体現するため毎日練習場所が変わる状況の中その場所で何が出来るのか、体育館があった頃よりも少ない練習時間の中で前と同じパフォーマンスを大会で披露するためにはどうすべきなのか考えながら日々練習をしました。例えば、ウォーミングアップ時間を減らしてメインの練習時間を増やしたり、大会を想定した技を繋げる練習を増やしたりしました。以前までは充分な環境に甘えて練習を疎かにしていた部分がある事に気がつくことができました。そしてインターハイ本番では決勝に進む事ができ、チームとして目標を体現する事が出来ました。

この目標を達成することができたのは、体育館を貸していただき、支援の手を差し伸べていただいた方々、体育館がなくなってからもいつもと同じ熱量で指導してくださった顧問の西村先生、キャプテンになってから人として変わるきっかけをもらった元副顧問の堀尾先生、OB会や同窓会など多くのご支援のおかげです。今後も感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。ありがとうございました。

- ◆全国高等学校ダンスドリル選手権大会 出場
Jazz部門 優勝
Lyrical部門 準優勝
個人部門 第3位(村田 俣月)
◆USA Nationals 2024 出場
JAZZ部門 第4位
SONG部門 第4位

ダンス部

『感謝』

普通科3年 長澤 累

「一位、名城大学附属高等学校ダンス部。」全国大会の結果発表の舞台でこのアナウンスを聞いた瞬間、私は喜びとは違う、ほっとしたというか、終わってしまったというか何とも言いがたい感情に包まれました。しかし、一緒に戦ってきた仲間の顔が目に入った瞬間、今までにない喜びを感じ、最高の涙を流していました。「ああ、これだ！私はこのためにここに来たんだ。」

私は、高校進学時、ダンスを継続するかどうか、かつてない程に悩みましたが、最終的には「もう一度全国大会で優勝したい。あの舞台に立ちたい。」と両親にお願いして入学しました。

ダンス部生活での一番の財産が、ダンス部の仲間であり親友たちに出会えたことです。私は運に恵まれていると思うことがよくあります。ダンス部でこの素晴らしい仲間たちに出会えたことを本当に感謝しています。部活動は、楽しいことばかりではなく、悩んだことも沢山ありました。しかし、そんなときは仲間たちが色々なアプローチをして助けてくれました。部長となってからもそれは同じで、自信を無くすことや不安もありましたが、仲間たちと共に怒り、共に笑い合うことで、同じ方向を見ながら全力で進み、どこにも劣らない強い絆が生まれました。そして忘れてはいけないのが、厳しい中にも愛情溢れるご指導をいただいた顧問の先生方やコーチに感謝です。先生方やコーチには伝えたいことが沢山ありますが、ここではやめておきます。また、誰よりも私たちの理解者であり、ここまで育ててくれた両親に感謝です。

最後に、とびっきりの笑顔で胸を張って大きな声で言います。

「最高の青春をありがとう！ありがとうございました！」



柔道部

- ◆令和6年度全国高等学校総合体育大会 出場
女子78kg級(井上 和奏)
- ◆第46回全国高等学校柔道選手権大会 出場
女子48kg級(田口 百桃)、女子52kg級(森田 真生)

『先輩に憧れて』

総合学科3年 井上 和奏

私がインターハイに出場したいと思ったのは、高校1年生の時に先輩がインターハイに出場している姿を見たのがきっかけです。私は付き人として現地に行き、生で試合を見ることができました。先輩が畳に立っている姿はとてめにかっこよく、憧れを抱きました。そして私もこの舞台に立ちたいと思いました。

愛知県で優勝し、インターハイに出場するためには、強豪校を倒す必要がありました。実力の差が大きいうえに、柔道をする環境も練習量も格上の相手に勝たなければいけません。私は今までこなすだけだった練習を、考えながら行うようにしました。そして、インターハイ予選に向けて相手の研究や練習に力を入れてきました。しかし、2年生のインターハイ予選では3位という結果になり、インターハイに出場することはできませんでした。目標を果たすことができず、私に何が足りなかったのかと考え悩みました。

そこで顧問の松下先生が練習の「質」について話していたことを思い出しました。最初は練習の「質」は考えながらやれば高まると思って練習をしていましたが、それでは前と同じ練習で、また負けてしまうと思いました。そこで私は、練習の「質」を高めるには、準備が大事であることに気づきました。明日の練習のために、睡眠や食事の徹底、ストレッチ、動画を見て研究するなど、それらの積み重ねで私は強くなれたと思います。このように柔道に専念できたのは、私を何の不自由もなく支えてくれた両親のおかげです。

インターハイでは結果を残すことはできませんでしたが、この舞台に立てたことは本当に嬉しかったです。この結果を出すことができたのは、仲間や先生、家族の支えがあったからです。素晴らしい先生や仲間と一緒に柔道ができて、私は本当に幸せでした。3年間ありがとうございました。

空手部

- ◆令和6年度全国高等学校総合体育大会 出場
男子個人 形(丹羽 壮真)

『先にある目標に向かう勇気』

普通科2年 丹羽 壮真

インターハイを終えて振り返ると、自分が空手を始めた理由、そして続けてきた理由を改めて考える機会になりました。空手を始めたきっかけは、父が道場をしていたからです。物心ついたころから道場の空気や稽古の姿を見るのが日常でした。そんな環境の中で自然と空手を始め、気づけば5歳から12年も続けています。空手を続ける中で感じるのは、これがただの部活動とは違うということです。部活のように仲間と一緒に取り組む楽しさももちろん魅力ですが、空手の本質は「一人で向き合うこと」にあります。型や技の稽古を繰り返す中で、他人に頼らず、自分自身と正面から向き合い続ける。その時間は決して楽ではありませんが、だからこそ自分を成長させる糧となるのだと思います。インターハイでは、全国の強豪選手と競い合う中で自分の弱さや限界を痛感しました。同時に、そうした経験を乗り越えて目標に向かい続けることの大切さも学びました。空手は、一朝一夕で成果が出るものではありません。何度も壁にぶつかりながら、一つずつ課題を乗り越える。その繰り返しの中で、自分を高めていく競技です。これからも、空手を通じて「一人でやることの重要性」を胸に刻み、先にある目標に向かって努力を続けていきたいです。そしてその過程で得たものを、次の世代に伝えていけたらと願っています。



新任教諭（令和6年4月採用）紹介



いしだ ひでのり
石田 秀憲
(英語)

退任教諭（令和7年3月末）紹介



はまじま りょういち
濱島 良一
(社会)

昭和60年4月～在職

名城高校に着任して、はや40年が過ぎようとしています。振り返ってみると、長いようであつという間でした。つらい記憶は薄れて、心地よい記憶に浸っているかのようです。

着任したころの名城高校は、今と違って男子校で、普通科・商業科・電気科・機械科の4学科でした。半分以上の生徒が就職で、あとの生徒が専門学校・短大・四大だったように記憶しています。名城大学へも短大・夜間・昼間合わせて130名ほどだったと思います。

着任当時の私に特別な目標はなく、担任、教科担当者、サッカー部顧問として、就職・進学前の青春真っ只中の生徒たちと一緒に泣いたり笑ったりするという、青春ドラマの青年教師に憧れていたのかもしれません。

やがて、生徒会顧問の代表、総務部長に選ばれるようになりました。それ以前からかもしれませんが、仕事も部活も家庭もすべてが中途半端で、大して仕事ができる人間でもないのに、周囲の人たちに助けられているのも知らず、迷惑をかけながら自分本位に突っ走っていました。多くの先輩・同僚・生徒・家族に多大なる迷惑をかけながら生きている自分に気づいたのは、今から10年ほど前でした。とどめを刺したのは7・8年前に起きた妻の大爆発でした。自分勝手なやりようを通してきた私に対する妻の強烈なしっぺ返しでした。でも過ぎ去った過去は、さかのぼって書き換えることはできません。ご迷惑をおかけした方々に直接会って詫言することもありません。どうすればいいのか…、遅すぎますが今からでも自分が変わるしかないと思っています。

最後に一言、ご迷惑をおかけした全ての方々にお詫言するとともに、名城高校で一緒に過ごしていただいた全ての方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



くりもと こうた
栗本 弘太
(社会)

令和2年4月～在職

知多市の中学校を定年退職後、名城大学附属高等学校の渉外室で5年間お世話になりました。私の好きな言葉に渡辺和子さんの「置かれた場所で咲きなさい。」という一節があります。人は必ずしも自分の居場所を都合良く選べるわけではありません。与えられた環境をただ嘆くばかりでなく、自らの努力で過ごし易い場所に変えていけば、やがてその場所で根を下ろし、大輪の花を咲せるとこの言葉は教えてくれています。

これから先、身を置く場所は幾度となく変わっていきますが、みなさんが花を咲かそうとする気概を持ち続けられれば、必ずや開花の季節はやってきます。みなさんの健闘を心から願っています。本当にありがとうございました。

新体育館（ユニット型）新築工事について【令和7年完成（予定）】

令和6年7月23日（火）本校南校庭で、新体育館新築工事の起工式が行われました。
起工式には法人および学校関係者と工事関係者が参加し、新築工事の安全が祈願されました。



工事は「名城大学附属高等学校ユニット型体育館新築工事」として、令和7年7月末の完成予定です。
場所は南校庭旧正門付近となり、ユニット型体育館による建設予定となっております。

なお、現在の第2体育館は、令和6年6月から解体工事を開始し、近隣の方々の安全に十分に配慮しながら進め、2月に終了（予定）となっております。

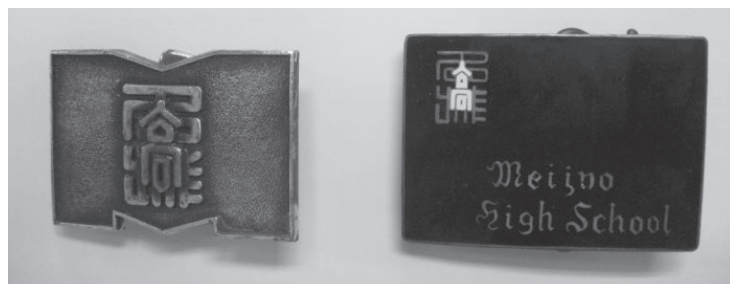
物 故 者（令和6年1月～12月）

ここに謹んで哀悼の意を表しますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

氏 名	逝去年月日	享 年	教 科	在 職 期 間
竹内良平	令和6年6月	82歳	数学	昭和47年4月1日～平成16年3月31日

「名城大学附属高等学校ゆかりの物品」寄贈のお願い

同窓会事務局では、令和8年の開学100周年に向け本校ゆかりの物品の収集を始めました。ご家庭の押入れ等で眠っている附属高校ゆかりの物品がありましたら、ぜひお知らせください。



◀写真は、諏訪宏和先生（第13回生 昭和36年3月機械科卒業平成16年3月退職）から寄贈いただいた卒業記念品のベルト用バックルです。
写真左は1962年のもの、右は1959年定時制のものです。

学校法人名城大学への募金・寄付について

学校法人名城大学では、2026年に開学100周年の節目を迎えるにあたり、次の100年に向けて、「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを策定しました。それに伴い、開学100周年事業（大学における全学共用棟新築・国際化の推進等）を実現させるため、「名城大学開学100周年記念募金」を始めました。

皆さまには、未来を担う生徒・学生たちのために、何卒力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名城大学開学100周年特設サイト
<https://www.meijo-u.ac.jp/100th/>



■名城大開学100周年記念募金 返礼品付寄付サイト「名城ギフト」



上記「名城大学開学100周年記念募金」の一環として、2023（令和5）年4月3日から返礼品付寄付サイト「名城ギフト」を開始いたしました。

本学オリジナルグッズや多様な品を約60点用意しておりますので、ぜひご利用ください。

【お問合せ先】名城大学渉外部渉外課 TEL：052-838-2066 MAIL：ookouyu@ccml.meijo-u.ac.jp



応援プロジェクト

<同窓会による『応援プロジェクト』発足！>

火災発生後すぐに、同窓会として、「少しでも早く復興してほしい!」「火事で活動の場所を失った多くの後輩たちへ何か支援をしたい!」という思いから、学校と相談して『応援プロジェクト』を立ち上げました。引き続き、支援を行っております。

支援策の一環として、寄付を募ります!

法人の寄付窓口を利用して寄付を募る方法となります。

高校のホームページのトップ画面に専用のバナーが掲載されており、順に選択して進めるようになっています。

一日でも早い復興を祈念し、多くの方のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

<以下、応援プロジェクト専用バナー情報と寄付の流れ>

・バナー



名城大学附属高等学校
同窓会長 後藤 健太郎

名城大学附属高等学校応援プロジェクトへの寄付募集

卒業生、同窓会活動にご賛同いただき支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
 さて、今回の第2体育館の火災につきまして、附属高等学校の生徒、教職員の皆様方には心からお見舞い申し上げます。
 同窓会として、附属高等学校の復興、活動場所がなくなってしまった附属高校生への支援等のため「名城大学附属高等学校応援プロジェクト」を立ち上げ、寄付を募集したいと考えています。寄付につきましては、学校法人名城大学の「教育活動充実」を利用します。**附属生以外の方にもご利用いただけます（本校との関係性についてはサイト内で詳しくご説明いたします）。**
 ご寄付いただいた金額は、下記、希望の枠からお願い申し上げます。サイト内の募集の欄には「**附属高等学校の教育活動充実**」と選択していただき、特定の活動への支援を希望される方は、**希望の寄付先欄に「部活動名」を記入してください。**
 是非、多くの皆様方からのご支援をお願いできれば幸いです。また、同窓生の皆様方にはお礼申し上げます。ご支援いただいたご支援者の方にはお礼状を送らせていただきます。
 何卒、よろしくお願い申し上げます。

ご協力いただける方は以下のリンク先へ

個人の方の寄付はこちら

法人の方の寄付はこちら

・寄付の流れ

学校法人名城大学の寄付受付サイトにリンクしています。以下の手順に沿って進めてください。



お願い:

寄付の項目は「⑩附属高等学校の教育活動充実」を選択してください。さらに、特定の部活動等への支援を希望される方は、希望の寄付先欄に「部活動名」等を記入してください。